

事業所名

ひだまり

支援プログラム（参考様式）

作成日

2024年

9月

1日

法人（事業所）理念	一人ひとりが、できることからひとつずつ積み重ね、更に「できた！」に繋がるよう支援します。				
支援方針	心の安定を図り、対人コミュニケーションの向上を図ります。身辺自立が出来るようにスキルの獲得を目指します。				
営業時間	9時	30分から	18時	30分まで	送迎実施の有無 あり なし
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	おもちゃや道具の出し入れや片付け、物の管理等、身の回りの環境を整える方法を学びます。また、掃除機や箒、塵取りの使い方、掃除の仕方等の清掃作業を行う清掃部の日を定期的に設けています。衣類着脱、排泄、食事等の日常生活における必要な動作のスキルを獲得し、健康的で自立した生活が出来るよう取り組みます。指示がなくても、何をするか等を自分で選んで行動に移せるよう、余暇の過ごし方も一緒に考えていきます。健康状態の維持を目指しますが、体調不良の際には表情や行動等、普段とは違う様子がないか観察しながら、健康管理を行います。			
	運動・感覚	指先の微細運動や、力の強弱をつけられるコントロール力、距離感等、身体機能の維持向上を図ります。鬼ごっこやかくれんぼなどの遊びから、体幹を鍛えたり、自分の身体感覚を知ったり、バランス感覚を養ったり出来るよう取り組みます。運動部の日は、与保呂川沿いの散歩や筋トレなど身体を動かす活動も設けています。光や音、感触等の感覚過敏や感覚鈍麻に配慮し、安心して過ごせる環境を整えるとともに、自らが心地よい空間を作ったり、選んだり出来るよう考えます。			
	認知・行動	物の大小の差を理解したり、数の概念を養ったり、時計を読んで予定に合わせて生活を送ったり出来るよう、学習を積み重ねます。畑の野菜収穫を通して、天気、色、形、重さ、大きさ、成長の違い等を体験します。庭に出たり、外出することで、天気や気温、季節等の環境の変化も学びます。嫌なことややったことがないことに対して、「頑張ってみよう」という意欲や挑戦、課題に向き合う姿勢や感情をコントロール出来るよう、一緒に考えていきます。「やって良かった」「出来た」という気持ちになれるよう、取り組みます。			
	言語コミュニケーション	人の話を聞く、相手に要求を伝える等、言葉でのコミュニケーションだけでなく、表情、声のトーン、ジェスチャー、絵カード等の非言語的コミュニケーションも交えながら、自分も相手も大切にしたいコミュニケーションスキルの獲得を目指します。また、特性に応じて絵カードや表記方法の工夫、手話等も使用し、気持ちに寄り添った支援を行います。			
	人間関係社会性	自分から挨拶ができること、マナーやルールを守れること、順番を守ったり交代が出来ること、声掛けに沿った行動が送れること、他者との距離感の取り方、言葉遣い等を日々の集団生活で学びます。自分がどんな気持ちなのか振り返ったり、物事の対処方法を考えたりしながら、気持ちのコントロールが出来るよう取り組みます。集団の中で、自分も相手もどちらも大切に行動を選択出来るよう、一緒に考えていきます。			
家族支援	送迎時や定期的に行う面談の中で家庭の様子を伺い、自立した生活に向けて支援しています。	移行支援	各関係機関との連携を図り、スムーズな移行ができるよう支援しています。		
地域支援・地域連携	地域の住民や関係機関などと共有を図りながら、社会参加する機会を作ります。戸外活動で公共施設を利用し、交流する機会やマナーを学ぶ機会を作ります。	職員の質の向上	発達支援に必要な専門研修を受講し、研鑽に努めています。		
主な行事等	・誕生日会 ・季節の行事 ・法人内放デイとの交流 ・戸外活動 ・避難訓練 ・買い物体験 ・乗り物体験 ・みんなの家行事 ・ひだまりコミュニティー				

令和7年度

安全計画

放課後等デイサービス ひだまり

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
避難 訓練等	防災訓練（火災、 地震のいずれか・ ひだまり滞在時を 想定）		虐待研修（身体拘束） 感染症研修 防災訓練（火災、地震の いずれか・ひだまり滞 在時を想定）	防災訓練（火災、地震、 防災センターでの体験 のいずれかを想定）		防災訓練（火災、 地震のいずれ か・ひだまり滞 在時を想定）
その他 ※1						
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
避難 訓練等	感染症研修	虐待研修（身体拘束） 防災訓練（火災、地震 のいずれか・ひだまり 滞在時を想定）		防災訓練（火災、地震の いずれか・ひだまり滞 在時を想定）	不審者対応訓練 （警察署の協力に より、ひだまりで 行う）	防災訓練（火災、 地震、防災セン ターでの体験の いずれかを想 定）
その他 ※1						

◎避難訓練で災害に対する理解を深め、速やかに避難行動できるようにする。

※1 交通ルールが理解できるように配慮しながら散歩等へでかける。

事業所名	ひだまり	公表日	2025年2月28日
------	------	-----	------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		事業所内だけではなく敷地内を活用し、広々と使えるようにしています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		2月現在は児童発達支援管理責任者、保育士3名を配置しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	動きやすいような動線の確保が出来るように配置しています。	事業所が古民家のため、敷地内の庭や建物を含めバリアフリーではありません。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		整理整頓を行い、過ごしやすい環境を作っています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別の部屋や場所を使用することは可能です。	個別の部屋は事業所内では取りにくい場合があり、敷地内の部屋を使用します。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		法人が定めているDo-CAP評価を半年に1回行っています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年に1回保護者アンケートを実施し、保護者の意向を把握し、支援に活かすようにしています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々のミーティングやDo-CAPの面談時等に現状や課題等を共有し、業務改善につなげています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	事業所内で課題を把握したり評価を行ったりして、改善に努めています。	外部評価が必要であれば、法人本部と協議を行っていきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		○	法人内の放デイ3か所で定期的に合同研修を行ったり、外部研修を可能な限り受講しています。	個々の職員が専門性を高めるために研鑽を深めていけるよう努めます。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○	支援プログラムの作成はしています。	公表は令和7年2月に行う予定です。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		年に2回の保護者面談や利用時の連絡によりニーズを把握し、事業所内でケース検討を行い、個別支援計画書を作成しています。	

適切な支援の提供

13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画書を作成する際のケース検討時や面談時には、直接こどもの支援に関わる職員も参加できるようにしています。	
14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		日々のミーティングやケース検討、職員会議等で児童・生徒の様子を共有し、計画書に沿った支援を行うよう務めています。	
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		保護者からいただく調査票や発達検査の結果等も交え、日々の行動観察を踏まえてアセスメントを行っています。	標準化されたツールを用いることは少ないです。
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		本人支援の中で「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域を含めています。家族支援や地域連携等も含めた計画書を作成しています。	移行支援は必要に応じて計画します。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員会議やケース検討の中でプログラムを決めています。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		計画書を踏まえて、季節の行事や定番のプログラムを行っています。	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動や集団活動を組み合わせ、5領域の項目に留意しながら支援を行っています。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前にはミーティングを行い、前日の振り返りをしながら児童・生徒の様子等を共有しています。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		送迎終了後に申し送りが必要な場合は行っていますが、基本的には翌日のミーティングで振り返りを行い、職員間の情報共有に努めています。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。			利用日には支援内容や児童・生徒の様子、状況等を記録し職員間で共有しています。	
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		年に2回の面談を行い、支援計画の見直しをしています。	

	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	○		地域交流は“みんなの家夏祭り”を行いました。創作活動、自立支援と日常生活の充実のための活動、余暇の提供は活動の中で行っています。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		自分で選び、決定する力を付けられるよう、日々の活動の中に組み込んでいます。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当者会議には、管理者兼児童発達支援管理責任者が参画しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		他事業所や保育所や児童発達支援事業所等との連携を行っています。	主治医等とは連携を取る機会がありませんので、必要に応じて機会を設けたいと考えています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校尾は、年間計画や連絡調整等の情報共有を行っています。利用児童・生徒の様子が状況等を共有しています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		新1年生を受け入れる際には、保育所や幼稚園、児童発達支援事業所等との情報共有を行い、移行が円滑に行えるよう努めています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		要望がある際には、保護者了承のもと、情報提供は可能ですが、卒業時ではありませんが、保護者の要望により転居や進学の際にケース等の提示を行い、提供しました。	卒業後の進路等を検討される際に、学校だけではなく放デイも情報共有できる体制を作る必要があると考えています。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		外部の研修等の機会を設けています。	児童発達支援センター等との連携は、必要に応じて行えるよう機会を設けたいと考えています。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		感染症等の状況を鑑みながら、法人内の放課後児童クラブの利用者や、法人内の放デイとの交流機会を設けています。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		自立支援協議会があるのか把握できていませんが、市内の放デイや相談支援事業所、児童発達支援事業所との連絡会議に参加しています。	自立支援協議会等があれば、参加したいと考えています。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		面談時や送迎時等に様子や状況等の情報を共有し、共通理解が図れるように努めています。	

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	必要に応じて、面談時や送迎時等に助言を行うよう努めています。	ペアレントトレーニングとしての提供は行っていませんが、それを基盤とした内容をお伝えすることがあります。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に書類確認や口頭で捕捉しながら、詳細を説明しています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	面談時や送迎時等に共有していただいた情報を基にして、意思を尊重しながら作成しています。作成後は確認する機会を設けています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	計画書の書面を確認しながら口頭で補足説明を行い、保護者から同意を得ています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	保護者の要望や思いに寄り添うながら、必要に応じて助言や支援を行うように努めています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○	保護者、利用児童・生徒、ご兄弟姉妹が参加できる「ひだまりコミュニティー」を開催しています。保護者同士の交流が出来るよう企画しています。	保護者会の設立はなく、活動はありません。必要に応じてきょうだい支援を検討します。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	苦情は随時受け付けています。苦情があった際には、詳細を確認した上でマニュアルに沿って迅速かつ適切な対応を行うよう努めています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○	不定期更新のInstagramで発信を行っていました。写真付きおたよりの発行は今年度はせずに、ひだまりコミュニティーでのスライドで、これまでの活動をまとめたものを上映しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	就業規則に守秘義務があると明記してありますので、個人情報は十分注意して取り扱っています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	個々に応じた対応で意思疎通や情報伝達が行えるように努めています。	

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		今年は“みんなの家夏祭り”を開催し、敷地内で活動している子育て支援事業所の利用者や、法人内の高齢者施設との行事を企画し、交流する機会を設けています。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを策定し、職員間で周知しています。保護者には契約時にお渡しするしおりの中に簡易マニュアルを挟んでいます。避難訓練等を定期的に行っています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定しています。2カ月に1回位程度の頻度で、火災・地震・不審者等の訓練を事業所内で行っています。長期休みには防災センターに行くこともあります。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者からの調査票により、または通院後の変更等は口頭で状況を確認し、職員間で共有しています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現在は食物アレルギーのある児童・生徒がいませんが、対象者が利用の際には、医師の指示書に基づいて対応します。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成しています。防災センターでの体験や避難訓練等を実施しています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時にお渡しするしおりの中に、避難場所等をまとめています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		日々のミーティングの中で、どういったことがリスクになり得るのか、対処方法等を検討し共有しています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		3か月に1回の頻度で、虐待や身体拘束について研修を行っています。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		3か月に1回の頻度で、虐待や身体拘束について研修を行っています。身体拘束をせざるを得ない際には、理解を得た上で計画書にも記載します。	

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名

ひだまり

公表日 2025年2月28日

利用児童数 2025年2月15日現在 21名 回答数 82%

		チェック項目	はい	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境 ・ 体制 整備	①	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14			限られたスペースで学習できるように工夫されていると思います。	室内のスペースが限られているので、庭や母屋等、敷地内を活用しながら様々な経験を積んでもらえるよう取り組んでいます。
	②	職員の配置数は適切であると思いますか。	14				現在は4名体制(児童発達支援管理責任者、保育士3名)を配置しています。
	③	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境(※1)になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12		2	1人1人の子どもたちのことをあまり知らないですがきっと◎です。	部屋数が少ないため、動線がスムーズではない箇所もありますが、視覚的に分かりやすいように配慮しています。古民家のためバリアフリーではありません。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	14			いつもキレイです。	畳と絨毯の部屋で、冬は炬燵を使用しています。広く遊べる空間を確保するために、活動に合わせて家具を移動する等、その都度配置を工夫しています。
	⑤	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14			成長に応じて支援内容も検討されています。	日々の様子や、年に2回の保護者面談を通して、お子さまの理解に努めています。より専門性を高めて学習を積み重ねていき、より良い支援に繋がります。

適切な支援の提供	⑥	事業所が公表している支援プログラム（※2）は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	13		1	・多分。 ・とても合っています。	「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」を主軸にした支援プログラムに沿った内容を日々の支援で行っています。
	⑦	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）（※3）が作成されていると思いますか。	13		1	こどもの特性と親のニーズに合わせて作成されています。	子どもたちの日々の様子や、保護者様との年に2回の面談、関係機関との連絡等を通して、ケース検討を経て様々な視点から分析を行い、個別支援計画を作成しています。
	⑧	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13		1	・多分。 ・面談で希望を聞いて、支援に反映された具体的な内容に設定されています。	今年度の個別支援計画書は5領域に分けた本人支援を提示した計画書を採用し、作成しています。そのため、支援内容もより具体的に設定してあります。
	⑨	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14				基本的な、5領域の本人支援、家族支援等に分けて作成した個別支援計画書に沿って支援の内容を組み立てています。
	⑩	事業所の活動プログラム（※4）が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	13		1	とても工夫されていて、楽しみながら学んでいると思います。	定番の活動（運動部、清掃部、ひだまり屋、音楽部、理科部、手話講座、避難訓練等）の他に季節の行事を含めながら変化のあるプログラムを作成しています。
	⑪	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	9		5		法人内の放課後等デイサービスや学童を利用する子どもたちと交流する機会を行事のときや長期休みに設けています。
	⑫	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14				保護者様にお時間をいただき、主に契約時に必要内容はお伝えしています。

保護者への説明等

⑬	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14			とてもわかりやすく説明して頂いてます。	作成した個別支援計画書については、適宜説明を噛みながらお伝えしています。
⑭	事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング（※5）等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10		4		ひだまりコミュニティーで、以前アンガーマネジメント、支援学校と支援学級の違いについて実施し、今年度は睡眠講座を企画しました。
⑮	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	14			家では気がつかないことを教えてもらい驚くこともあります。	送迎時、電話連絡、面談等で、お子さまの様子をお伝えしています。ご家庭での様子もお伺いし、様々なお子さまの様子を理解しようと努めています。
⑯	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14			面談で知りたいことを教えて下さり、安心しています。	年に2回の面談を行っています。送迎時にお会いしたときにも、必要に応じてお伝えしています。
⑰	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14			みなさん親切で話しやすいです。	お子さまに関わる関係機関のひとつとして、共に成長を喜べるよう、どんなことでも気さくに話をさせていただけるように努めています。
⑱	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7		7		ひだまりコミュニティーを開催し、保護者同士の交流の機会等を設けています。今後はきょうだい支援等にも広がっていただけると考えています。
⑲	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14			面談では、的確なアドバイスや、今だけでなく将来を見ずえたアドバイスが頂け勉強になります。	基本的には年に2回の面談がありますが、必要に応じて随時対応しています。いつでもお申し付けください。
⑳	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされてると思いますか。	14			その日のできごとを聞くのが楽しみです。	面談や送迎時に様子をお伝えする他に、お知らせの配布等で情報をお伝えしています。

	⑳	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	13		1		ひだまりグラム、みんなの家インスタグラム(現在閉鎖中)での活動報告、法人ホームページにて自己評価等の発信を行っています。
	㉑	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14				職員には守秘義務がありますので、個人情報は特に厳重に注意しながら取り扱っています。
非常時等の対応	㉒	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13		1		事業所に各種マニュアルがあります。簡素化した内容を契約時に配布しています。各訓練は実施しています。
	㉓	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12		2		非常災害の発生に備え、火災、地震、不審者等の訓練を約2カ月に1回の頻度で不定期開催しています。
	㉔	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14				安全計画を作成し、それに沿って支援を行っています。
	㉕	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14			けがのとき(ハチなど)そうでした。	なるべく事故等が起こらないように配慮していますが、発生した際にはマニュアルに沿って迅速に対応するよう努めています。
	㉖	こどもは安心感をもって通所していますか。	14			・スタッフの皆様にかわいがっている ・とても嬉し ・安心して います。	ハロウィンや豆まきなど、緊張感が漂っている時期はありますが、なるべくリラックスして通所していただけるように工夫しています。
満足度	㉗	こどもは通所を楽しみにしていますか。	14			・とても ・とても 楽しみに しています。 通所回数 が少なく 残念 です。	楽しみにして通っていただきありがとうございます。楽しい、また来たいと思ってもらえるようなひだまりの活動を続けていきます。
	㉘	こどもは通所を楽しみにしていますか。	14				

その他	㊹	事業所の支援に満足していますか。	14			たくさんのお出かけや行事があり大満足です。	お子さまだけではなくご家族様へもきめ細やかで丁寧な支援が行えるよう、職員一同が研修や学習を通して学びを続け、日々の実践に活かしていきます。
-----	---	------------------	----	--	--	-----------------------	---

※1 「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、こども本人がこの部屋で何をするのがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。

※2 「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3 「放課後等デイサービス計画（個別支援計画）」は、放課後等デイサービスを利用する個々のこどもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

※4 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。こどもの発達の状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

※5 「ペアレント・トレーニング」は、保護者がこどもの障害の特性やその特性を踏まえたこどもへの関わり方を学ぶことにより、こどもの行動変容することを目標とします。

その他ご自由にお書きください（ご意見ご要望等）

- ・他の事業所にはない魅力的な行事があり、全員が楽しめる工夫がなされていると思います。本人も楽しく通所しており、持病の受診で休むことが多いのが非常に残念です。いつもありがとうございます。
- ・成長期なので様子は変わったところもありますが、心の支えとして頼りにしています。（母子共に）
- ・いつもお世話になり、ありがとうございます。ひだまりに行くことで、年齢関係なく多くの友達と関わることができたり、普段行けないところに出掛けたりと、たくさんを経験をさせていただいています。初めてのことや初めての場所が苦手な息子も、少しずつ挑戦する姿が見られて、親はとても嬉しいです。今後どうぞよろしくお願いいたします。
- ・毎回楽しそうにして帰って来ています。ありがとうございます。
- ・いつもお世話になっております。ありがとうございます。中学生になったら、利用をやめるということと主人と話しております。まだ決定はしていませんが、その方向です。また、お知らせいたします。

たくさんご記入いただき、ありがとうございました。参考にさせていただきながら、引き続き取り組んで参ります。保護者の皆様と一緒にお子様の成長を間近で見られ、関わることが嬉しいです。伸びやかに過ごしていただいている日常生活の中で、広く深い支援が行えるよう、職員一同学びを続けていきますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ご協力いただき、ありがとうございました。